中郡藤田拘引始末

1826

114
A2752

証言者木村真三郎也

宮内省

大阪府平民従五位中野平氏為替偽造ニ関係ル疑ヒ有之候ニ付テハ偽造ニ関係ル疑ヒ有ル者ヲ直ニ拘引シタル所右者ハ多年ハ何様強欲又ハ大胆不知事ニ孫メ與ニ云ヒ或ハ殺害シ官ニ通知シタルハ戦慄ヲ冒シタルト云ヒ或ハ殺害シ専断甚シト雖モ皮相者ヨリ之ヲ見ル時ハ或ハ其傍ヲ免レスト雖モ該件ノ如キ其目的トスル所ノ原因ハ中野藤田ノ両人ニ止ル者ニ非ス素ヨリ一朝一夕ノ探偵人告世教者等ノ申立ニ拘泥シタルニ非ス其源渕ナル趣意ハ故大塩平八郎ノ在世中ヨリ含有シタル者ニシテ数百言ノ尽ス所ニ非サレハ茲ニ其一二ヲ挙テ大趣意ヲ陳ベン昨年　聖上御巡幸供奉トシテ川路故大塩平八郎

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

ロヌスルニ臨ミ大阪愛國社議會ノ動靜視察ニ旁
數名ノ幾部ヲ派遣シ其情狀ヲ行在所ニ報セシ
ムルニ大凡該社員等ノ演說ヲ為シ人心ヲシテ政府ニ背
反セシメントスルノ意ハ官吏奸商ト通謀シ私利ヲ富ム
等ノ一二件ヲ擧テ政府一般ニ及ホシ見セシムルノ精神
ヲ隱然含ミ居リ駐剳スル者日一日ヨリ多ク將來ヲ慮
レハ土山胆ヲ釀サントスルノ憂アリ依テ先ツ官吏奸商ト通
謀云ヘル事實ノ有無探偵セシムルニ該時滿府下ノ民口
ニ噴々止マサル者ハ茲ニ伊三郎西南事變軍吏
賃銀私有云々ノ件ハ貴顯官ノ庇蔭スル所アルヲ以テ
被損者ヨリ幾度公判ヲ願出ルモ採用無之云ヘト仮
令家財ニ官金ヲ磯部ハ右事ニ託シ米商法ヲ成サ
シムルトノ事等喋々不平徒ノ口ニ藉テ以テ人民ヲ駭惑

セシムルノ本トハ成シリ右二事件探知ノ要ヲ略陳スルニ以勝
田傳三郎ハ伊一新以來長州ヨリ大阪ヘ寄留シ差ヒタル商
法モ不殺已ニ身代限ニ為ラントスルヲ鳥尾山縣兩中
將ノ周旋ニ因テ大阪鎮臺ノ預備金ヲ借用シ同臺一
切ノ用達ヲ命セラレタル所福福右衛門ニ負債モ償却シ
可也ノ身代ニナリシカ明治八九年迄ハ格別ノ富有モ不相
見ニ井上馨ノ世話ヲ以テ恢内社ヘ五六十四ノ月給ニテ雇
ハレ居タリシ由

氏共同社ト云ハ井上馨山口縣令中野梧一ト謀リ從前
縣廳ニ在ル処ノ皮民共有ノ如キ金二拾余万円ヲ持
出シ之ヲ資本トシテ設立シ中野縣令退職シニモ
素ヨリ同謀人タルヲ以テ該社員トナリ月給百円余ヲ
取ルヿト相成其社員ハ三浦三好將官其他高貴ノ

人多ク府民ハ之ヲ官員商社ト悪名ヲ下スニ至シリ
然ルニ西南事変ニ付戦地派出軍吏請受并諸物品
賣上用達ヲ協同社ヨリ為サントスルニ所謂皮員商法
ナレハ外見ノ悖ル所有之ヲ以テ名ヲ藤田組ト称シ金ノ
協同社ニ離レテ戦地ニ赴カシメタリ其際鳥尾中将ハ藤
田ノ宅ヘ下宿シ賄賂善美ヲ尽サルナリ此時分一月諸皮
吏ニ入ル所ノ賄賂代價四千五百円ニ下ラス鳥尾ノ書画骨
董並荘園興等ニ立替タル金額六千余円トナリ亦時々
新地一ノ谷ト云料理店ニテ接奥ノ際ハ妓色ヲ混合賭
博ヲナシ藤田鳥尾等ノ交際実ニ深密至ラサルナキヲ以
テ鎮撫ノ気計皮吏ハ至テハ藤田ヲ中将ト同視シ
他商ノ賣上ントスル物品ハ品位ヨリシテ價廉ナルモ決メ之ヲ
買上ケス悉リ藤田ニ用向申附ル勢ト成シリ又軍吏ノ儀

ハ一日一人七十銭余宿ノ笞ニテ鎮撫ニ書キ出シ戦地ニテ
ハ五十二銭余ヲ相拂其餘金ヲ私有シ五金数万円ニ及ヘ
リ然ルニ之ヲ帰牧後拂フト詐リ拂ハサルト雖ヒ奈何セ
ン右ノ如ク貴顕ノ人々ト同等ノ位地ニ見做サレタル藤田ナ
ハ皆恐レテ訴ヲ為スヒ採用アラサル可シトテ差扣ヘタリ又
協同社ニ於テハ井上大阪府一等属ヲ始メ集會ノ度毎ニ
賭博ヲ為サルハ莫シ只不品行等ノ顛末人民ハ勿論不平
徒等ハ益々不平ヲ鳴ラシ政府ノ皮吏ヲ悪評スルニ愈
騒シ右ノ藤田組探偵ノ概略ナリ
大阪府知事ノ邸内ニハ木原某ナル者ヲ置キ府ノ一等属
ヲ命シ従来府ニ預金則部金ト唱フル二拾余万円ノ貯
金アルヲハ木原ノ手ヲ以テ磯陽ニ出シ米商ヲ為サシメ其
他種々ノ策ヲ凡在リシ趣キハ聞故大数視深リ憂フル

所アリ帰京後豆州熱海ノ温泉ニ於テ右等ノ弊風ヲ矯正シ政府ヲシテ人民ニ信セシムル益深ヤラシメントノ意ニテ藤田組人夫賃銀濫取ノ事ヨリ着手セント欲スル内外多端ノ際ナレハ外事ヲ整頓シテ内事ヲ一洗セントス云フ議モ起リタル際俄然内命アリ政府ヨリ出ル者井上馨政変ヲ遂ケサリシニ元藤田組手代本村某ナル者井上馨政府ヨリ贋造紙幣ヲ送リ藤田中野等之ヲ使行スル稜ヲ証言スル者アリ於又藤田中野ノ身代成立ヲ探偵スルニ中野ノ山口県参事ヲ辞命シ任所ニ趣クヤ負債ヲナシタルニ八年退職スル後ニ至テハ数万円ノ資産ヲ以テ商業ヲナシ又藤田ハ明治八年迄借家ヲナシ居リシニ三年ノ間俄カニ富家トナリ島田組ノ地面ヲ買求メ数万金ヲ費シテ家屋ヲ新築シ政府屈指豪商ノ右ニ出テ奢侈亦限リナシ或ハ骨董ヲ買ヒ或ハ遊廓ニ費ス処ノ金数千円ニ下ラス尋常ノ商業上ヨリ成立シタル身代ニ非ルハ一目瞭然タリ況ヤ贋幣ノ事タルヤ探偵上ヨリ其証ヲ得ント欲シ地方警察ニ依頼スレハ直ニ彼等ノ覚ル所トナル(リ又着手スルニ於テ内務卿ノ許可ヲ請ントスルモ漏洩スルノ恐レアリ去リ迚搭置ハ政府ノ興廃国民ノ困弊ニ関スルニ因テ仮令贋紙幣ハ其証ヲ得サルモ蓋シ之ニ行テ官吏ノ悪幣ヲ矯正スルノ機会ナリトナシ断然中絶視決行セシメタル也然メ其身代ノ暖時タル明治九年前ノ出納簿ナリシテ九年以来俄カニ持契シタル者ナリ果シテ探偵ニ違ハス高貴ノ官員ヲ遊廓ニ誘ヒ賭博ヲ催シタル確証其他種々怪ム可キ廉アリ然ルニ贋造紙幣ノ証拠品ハ之レ無リ其ハ[illegible]ヲ尋ンントスルニ仮令彼等其所業アリ

ト雖モ其詐ヲ隠滅セシメタルモノト信認スヘキ迹ノ顕然タル者在レナリ

○

中野藤田従令紙幣偽造之一所業アリモ確証ヲ得サル原因ヲ發見シ探偵ヲ止メタル所以ヲ左ニ記ス

本年五月偽造紙幣探偵照会トシテ各府縣ヘ派遣ニナリシ際越本縣ニ於テ縣令富岡敬明書記皮松本弱一等巡査魏松元次規ノ三人ニテ内決シタルニハ偽造紙幣之候ニ付テハ何レノ所ニ波及致シ居ルヤモ計リ難シ就テハ三人ノ外ニハ決メ洩サス該探偵ハ三人ニ而身躬ラ眼ヲ配リ注意スヘシト深ク秘シテ厳洩セシメス然ルニ右松本弱

一本年十月十四日堺縣南宗寺ニ於テ中野格一市五席

（件ノ裏面ハ薩長人軽躁ノ狂心上ヨリ起ル書巧ニ文ヲ撰ミ本文ハ必竟脳裏軽躁ノ自認自認ナルニ過ギサル也）

調中申立ニ自分儀明治九年二月中日失念大阪府第五内海忠勝権令ノ事松本弱其他某々ト大阪府下北濱一町目割烹店加賀井事福元伊助方離レ座敷ニ會合賭博ヲ致シタリ云ヒ世ニ會而已ナラス幾度ナルヤ其席数記臆セズ

一藤田傳三席條約記ニ曰ク三ノ屋某ノ講元ニ而因講ト云フ無尽ヲ企ツ明治七年十月ノ事ナリ毎月廿五日ヲ掛金ト定メタル講約人名ニ内海忠勝松本弱モ之藤田ト連署シタル者アリ

一藤田組接菊簿ヨリ書抜

明治九年七月

内海忠勝　㊞

花蔵　大きい

壁上布　壱反　松本権蔵殿
キセル　壱本
ダンセン　壱本　五四八銭　十二月
玉　壱ツ　内海殿
帳　壱ツ
笠重光幅　松本殿
茶タク五枚
十年七月
広呂秩父　壱反　内海殿
涼舟　壱艘　松本殿
広呂　壱反
十年十二月
上汐瓶一　拾九円十二銭五厘

男帯　壱　四円　大圭記度　松本殿
反物　一反　八円八十五銭
十年七月
竹絞　八円六十銭　大圭記度　松本殿
上布　五円拾五銭
十一年十二月
汐四平指　壱挺　内海殿
十断　松本殿
明治十年迄後四使三百仲ヨリ松本殿ヘ因講拝金
立替タル員数左ノ通リ
一金五百弐拾壱円六重
右内拾拾本ノ如キ大本ノ茶碗ヲ共ニシ或ハ金尺ヲ取リ組己ヲ利スルカ為メ
博

益田ヨリ金圓ヲ恩借シ。且又賄賂ノ件ノ如キ一ニ枚挙スルニ遑アラス右ノ数件ヲ以テ推測スレハ内海松本ノ如キハ国民ノ公益ヲ顧ミス一身ノ利ヲ営ムニ汲々タル好吏タルハ論ヲ俟タサルナリ

藤田トノ関係アリ本年五月贋造紙幣ノ探偵ヲ依頼シタリ果メ偽造紙幣ノ変中既益田ノ所為ニモセヨ共ニ國法ヲ犯シ共ニ私利ヲ営ムノ内海松本ニシテ豈公私ノ区域ヲ分守シ彼レニ密洩セサルノ理アランヤ是レ贋造紙幣ハ仮令中野益田ノ所業ニ出ルモ確証ヲ得ル能ハサル原因ト認メテ該事ニ関スル探偵ヲ止ムル所以也

藤田伊三郎ハ本年三月中規則ニ定メ

第一

藤田伊三郎今後一家ニ住居シ本業目的ヲ変スル為メ井上馨ニ差図ヲ乞フ事

第二

伊三郎身代い勢リ成業迄ニ間ハ其産一切自分自由ス権ヲ井上馨ニ之ヲ預ケタリ伊三郎いな死人ニ心得ヲ以テ益田組ニ勤務セシムル目的トスル迄ニ利益ヲ受クルノ限ニアラス

第三

他米ヲ不持シテ其お情厳ナリ召連ニ者タリ臣ヲ情ニ取計ラヲ願いたく若し連ニ赤面スル可シ

第四

他人ヨリ預リ金ニ関スル間敷事

第五

第五

不動產ヲ引當貸附等ニ厳禁タリ

第六

放蕩ニ渡シ且商用ノ為メニ非スシテ私物等ニ費ヤスヿ

第七

傳三郎ハ家產等皆悉自分ノ見込ヲ以テ世ヒ拂ヒ又ハ他人ニ分與或ハ内々ニ拵ヒ恣意ナル明友ヲ作リ元金ナル拵事ナリシテ貸附金等一切厳禁タリ

第八

傳三郎ハ別月百圓ヲ以テ月給トシ之ム自分妻ニ為ス可ヿ

分與ス事

但飲食油炭等ノ費ハ店ヨリ相拂只衣服等

一身ニ供スル道具自分之ヲ弁スヘシ変故アリテ不足スル在ラハ翌月ノ月給ヲ以テ差引勘定スヘシ

商用ノ為メ旅行等ノ節ハ別ニ月給ニ在シ旅費ヲ之ムヘキヿ

第九

商業ハ大阪鎮臺エセント酒製造ヲ主トシ其他猥リニ多端ヲ許サス井上馨ノ許可ヲ可受事

第十

毎年七月十二月両度ニ決算ヲ為ス勘定校益差引ハ又ヘシ其利益変シ公債証書或ハ預ケ金又ハ物品ト成リタル者ハ精細現價ヲ以テ粧算勘定ヲ為シ可シ其表ヲ製シ一枚ヲ井上馨所在ニ送達ス可シ

第十一

久原庄三郎ヲ以領収書ニ出役シ社員保長ト
定ム月給五拾円ヲ與フ

第十二

諸商業或ハ條約取結等ノ変件ニ付井上馨代人
トス傚シ中野梧一ニ於テ社ノ改事

第十三

中野梧一ヲ社員定ム出納掛ヲ兼ル

第十四

藤田鹿吉ヲ月給五拾円ト定メ中野梧一ノ命
令ヲ受ケ勘定帳面出納ヲ主任シ殊ニ入庫
品ノ来ル通貨ニ不変物品又ハ倉用ノ社費ハ
別ニ定ム減ス可シ
但定額費ノ外ハ中野梧一ノ命ニアラサレハ
出納ヲ為ス可カラス

第十五

中野氏ヨリ金融ノ為メ或ハ両人間合ノ條約ハ三ケ
年トス可シト雖モ自然藤田伝三郎ヲ契別ヲ
破ル中ハ中野氏ハ自然勝手ニ事務ヲ辞ス可シ
事有リテ去ル時ハ相議ノ上可取計事

第十六

此社諸則ハ定ル所無スル上ハ兄弟三人協同力互ニ忠告
ヲ加ヘ自然不用者アラハ早ク之ヲ井上馨ニ申告ス可
シ銘々私情ニ拘泥シ保証点滴海水ニ至ル不則
害ヲ想像スヘシ確定セシ条ヲ収守シ一家ヲ保
存シ他日我輩ノ面目ヲ失ハシムル勿シ

明治九年一月七日

井上馨 印

朝臣
原馨

藤田傳三郎殿

右前書之法則被作出候ものに付第一ケ条之儀おもむき背候ものは相応の罰被仰付候ものに付なるべく出来申候様御心得被成度存候

明治九年
第一月

井上馨殿

高崎伯爵より被出候ものに付ては御行の段後日相違無之様御心得被成度存候

陸奥宗光

日日

中野梧一日記抄写

高崎山口長之由
吉富簡一 (簡)

(徳)
藤田傳三郎
藤田鹿之助 □
久原庄三郎 ○

乙 (内) 権大弾正都筑 (ある後一日名取 相成の者)

壬申五月四日の條
馬関へ蔵を建築し近県貢米を搬送し又は其抵当を大輔電信に以て致す由伺候不
當と存候
大輔とは井上馨の大蔵大輔なりしか久保甚の書簡
の大意に自身の意見を書加へたるものなり
前二ケ条略之
一佐藤志郎差出し文に大阪知事は高官数
名の商法に協し国家の大実体と存候右の席中
決して無作法なり中略黒白頓く揚ケ
度もとなり脳を割りて篤と御考察を乞
ヲ探索するに彼の商と相並て雖敵とする者欲又い
彼の社をしりぞき追出せし者数を引入れて手を打ク

ハニ非レハ得ヘカラス右様ノ儀ニ付テハ又
右命令ニ変事計ラレ度様ニ致度
未ノ儀 未三ケ条畧ス

十月三十日 川路利良

西郷隆盛殿

大阪ニテ右変高ノ探索ハ色ニ電信ヲ以テ
ヲ名目ニ使ハレタル浅シ内々用ヲ用トラル様ニ
萬ト其ヲ異ニ求メ様ニ計ラル様

桂一先生 侯爵 孝允

西郷ニ墨書ヲ加ヘ色ニ[illegible]ヲ[illegible]
ニ墨書ニテ遣ハ[illegible]
元ヲ一ツトシ一不幸ニ[illegible]竹橋ト

遣ハ[illegible]事ニ内地[illegible]ハ平ヲ恐ル[illegible]等ニ
[illegible]ヲ以テ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

二十五日

[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

高村廉次郎儀侯爵岡村家ヲ継
藤則命ヲ出ト云
明治十三年九月廿七日相家